

課題番号	応募者名	事業名	評価者の主なコメント	評価者のコメントに対する回答
J2002	鹿島建設株式会社	生ごみ未分別可燃ごみのバイオガス化システムの実用化	混合ごみからバイオガス化に適した原料を分別する技術の開発については一定の成果が見られるが、バイオガス発生量、紙の分別（前処理）、残渣排出、等にもう一步の進展が望まれる。	原料の粉碎，選別機構に関しましても，改良の検討を継続して行っております。できる限り，紙ごみも原料として選別できるよう，改良を行いたいと考えております。
			バイオガス発生量の目標（180Nm ³ /t）未達成の原因究明と対策が明確でない	目標値に関しましては，別原料（実可燃ごみ）を使用した事前試験でのデータからマテリアルバランス計算により算出しております。今回，含水率の違いなどにより，紙ごみの異物への排出割合が高かったため，目標達成できませんでしたが，紙ごみの選別効率を高めるよう，検討を継続しております。
			残渣排出メカニズムの開発は困難ではないか。	残渣排出は，機械的に排出する機構を構築すべく，平成21年度の本プロジェクトで実施いたします。事前試験の結果，ある程度の目処はたっており，実証試験で効果を確認する予定です。
			紙ごみもバイオガス化する目的で、選別によって紙類を選別ごみに入れるより、細かく破碎するなど前処理の工夫を検討されたい。	紙ごみの選別に関しましては，粉碎，選別機構の改良の検討を継続して実施し，できる限り原料ごみに選別できるシステムとしたいと考えております。
			西欧の先進例に類似しており、新規性に欠ける。	西欧の実用化されているプラントのほとんどは，固形分のままバイオガス化を行う乾式発酵が主流です。本技術は，湿式でバイオガス化を行うため，バイオガス化効率，安定性，大型化の面で有利と考えております。また，発酵残渣中への異物の混入も少ないため，堆肥などへの有効利用も可能と考えております。
			実用化の可能性は高いため、今後、事業化への工程を明確にして検討されたい。	現在，システム全体の大型化，効率化を含めた検討を実施しており，早期の実用化を目指しております。